
偽りの仮面

Granxie(エドワード)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽りの仮面

【Nコード】

N0014S

【作者名】

エドワード
Granxie

【あらすじ】

5年前の今頃

ずっとイジメられ続けた俺・・・

響 蒼は精神的におかしくなりカードにのめり込む

現実を拒絶する為に・・・

それでも誰かに止めて欲しかったのかも知れない

誰かに認めて欲しかったのかも知れない

自分と言う存在を・・・

（前書き）

設定

響 蒼ノザイン age 18

黒仮面のカードバトルー

その正体は自分を拒絶し続ける少年

イジメのショックで自分を見失いカードバトルにのめり込む
人気になるも黒い噂が絶えない

しかし、魔女っ子ゲミュートの影響で変わる

ルーイン 葵ノゲミュート age 18

蒼の幼馴染で蒼に片思いしている少女

蒼がザインとしてカードバトルにのめり込んでしまった為に止めよ
うとカードを始める

最近になってやっとザインと互角になったので

コスプレで魔女っ子の格好でカードバトルをする

魔女っ子の時は顔が帽子で見えない

5年前の今頃

ずっとイジメられ続けた俺・・・

響　蒼は精神的におかしくなりカードにのめり込む
現実を拒絶する為に・・・

蒼「——もう、いやだ・・・」

あの時から俺の心はずっと日常に戻っていないかも知れない
ただ、相手を徹底的に潰してきた・・・
カードバトルで——

蒼「今日から・・・俺は——」

そう、言いながら黒い仮面を付けた
それからはずっと自分が自分でなくなってしまった気がする
今も大会でカードバトルの最中

だけど、自分じゃない自分が戦っている
そんな風に俺は見える

ザイン「さあ、君の番だ。とは言っても、もう無理だろうけど」
相手は何も出来ない程に動きを封じられギブアップするしかない
ザインとしての俺は残酷なまでに相手を潰すカードバトル
相手は精神的に疲労するらしく顔が暗くなる

蒼（結局・・・——）

そんな事を思ってもザインとして戦っている自分がある限り
同じ事が繰り返される

次の対戦相手はゲミュートとなっていた

蒼（『心』・・・？）

——対戦者が目の前に来た
見た目は派手な魔女っ子

何処からどう見てもコスプレイヤーと言われる人だと分かる格好だった

ザイン「さあ、始めようか・・・」

勝手に口走ってしまうけど

ザインとしての俺はもう止まらない

誰も止める事が出来ない・・・

ゲミュート「ええ、いいわよ」

先攻はゲミュート

カードを引いて――

ゲミュート「私の番は終わりよ!!」

ゲミュートと言う魔女っ子の言葉は焦っているように聞こえた

ザイン「さあ・・・君を破壊する・・・」

狂った俺自身、それは相手を精神的に追い詰める

まるで道連れにするかのように――

ザイン「さあ、君の番だ」

挑発的な発言

これがいつもの戦い方

――これですつと互角の戦いが続いている

それはゲミュートがザインに何かを訴えるようで少し辛かった

ザイン「――これでトドメだ!!」

結局、勝ってしまった・・・

だけど、心は満たされない

ゲミュート「まだ、諦めないんだからね!」

意味深な言葉を残して会場を出ていくゲミュート

ザインとしての俺は見もせず次戦を待っていた

蒼（はあ・・・誰なんだろう・・・あの魔女っ子・・・）

――結局、大会はザインとしての俺の優勝

それでも、喜べない自分がいた

そして、満たされないザインがそこにはいた・・・

帰り道

大会以外では仮面を外しているから誰も気付かない
もちろん、対戦した相手すら・・・

歩いていて公園の近くを通るとあの魔女っ子が泣いていた
ゲミユート「結局・・・」

独り言らしくほとんど聞こえない
素通りしようか声をかけようか迷った

蒼（・・・そう言えば・・・――）

自分を知らないだろうと大きく溜息をついて結局、声をかけずに帰
ってしまった

家での俺は部屋に閉じこもり

誰も寄せ付けないでいる

蒼「はあ・・・」

締め切った部屋のベッドの上で膝を抱えて落ち込む

勝ち続ける事で黒い噂が増えていくし

精神的にどんどん辛くなっていく・・・

だけど、止められない

戦わないでいる方が辛く感じるからだ

『ピンポーン』

誰か来た・・・

誰か来る度に怯えて部屋の隅で体を震わせている
ザインとは正反対の状態

話声が聞こえてきた

どうやら幼馴染のルーイン 葵らしい・・・

ハーフで父親が外人だとか昔に聞いた気がする

それでも、今の俺はずっと怯えたままで会っ気になれない・・・

葵「——そうですか・・・また、来ます・・・」

葵が落ち込むのは俺が原因

昔のように会えればいいけど・・・今は辛い

——大会が無い日は部屋から出る事も無く学校に行く事もしない
そんな日、葵は大体来る

今日もまた来た・・・

葵「——今日もですか・・・また来ます・・・」

これが5年も続いている

時々、昔が懐かしくも思った

けれど、今は人が怖い

ただ、恐怖で自分が壊れていく・・・

——そして、また大会の日

自分では気付かないうちに会場に来ている

そして、ザインとして大会に参加する

今回の大会も魔女っ子がいる

既に噂の人物になりつつある魔女っ子ゲミュート

それは俺と関連して噂される

少年「あの魔女っ子、黒仮面を倒す為に来たって話だよ？」

そんな噂はすぐに広まり

今回の大会決勝でのザインとゲミュートのバトルは盛り上がった

少年「魔女っ子さん、黒仮面なんか倒して!!」

そんな声援もあるくらい人気になっていた

ゲミュート「ありがと、黒仮面は私が絶対に倒すわ!!」

出来るはずも無いのにあの振る舞い方

何処か懐かしさを感じる

ザイン「・・・さあ、さつさと始めようか」

苛立つのはザインとしての俺だけ

ゲミュート「私が勝ったら、ちよっといいかしら？」

ザイン「ああ、だからさっさと始める!!」
いつもの冷静なザインが苛立ち
声を荒げているので会場はざわついていた

―そして、今回の大会は俺が追い詰められていた
ゲミュート「さあ覚悟なさい!!」

俺が負ける?

ありえない状態に会場は歓喜の声援が響いていた
ザイン「くっ・・・」

それでも反撃をする

ゲミュート「往生際が悪いわよ!!」

そんな事を言われながらギリギリと追い詰められていく
ゲミュート「これでトドメよ!!」

結局、負けてしまった

黒仮面を倒す魔女っ子に会場は最高潮になっていた
ゲミュート「約束どおり来てもらうわよ?」

大会の景品を受け取り俺を連れ出そうとするゲミュート
参加者はついてこようとしている

ゲミュート「ごめんね、黒仮面に用事があるから皆は来ないでね?」
そんな言葉で俺を誰も来ない場所に連れてきた

ザイン「なんのようだ?」

負けた事もそうだが馴れ馴れしい態度にイラついていた
ゲミュート「まだ、気付かない?」

そう言っって帽子を取る魔女っ子ゲミュート
帽子の下顔は見慣れたはずの葵の顔だった

ザイン「どうして・・・だ?」
戸惑い、混乱し始める俺がいる

葵「ねえ・・・蒼、そろそろ気付いてよ。私の『心』に!」
そんな事を言いながら泣き始める

葵「私・・・蒼が好きだから・・・止める為にこんな事までしたのに――」

葵の本音

それは好きな俺の暴走を止めて気付いて欲しかったと言う事

俺はその言葉に仮面のまま泣いて抱きしめていた

蒼「・・・ごめん」

ただ、その一言しか言えなかった

俺の心が満たされていく

求めていた物が手に入ったかのように・・・

それから、しばらく

黒仮面ザインと魔女っ子ゲミュートは大会に来る事は無かったと言う

本当に求めていた物が手に入った俺は素顔で大会に参加している

もちろん、葵と一緒に・・・

葵「負けた方が今度のデートを計画する事、いい？」

笑顔の葵に俺は渋々頷くしかなかった

頷かなければ泣き落としが始まって面倒だからだ

それでも、葵との日々は満更でもない・・・

俺にはもう、偽りの仮面はいらない

俺を支えてくれる好きな奴が傍にいるから・・・

（後書き）

プロットっぽいものを使って書いた作品

とは言っても2時間で書き上げるのは早いらしいね？

今回はカードゲームと恋愛と言う異色を使ったりしますね

とは言ってもこう言うネタはロストがやったはず

でも、あいつみたいにエロ全開じゃないから

また違うはず

それにあいつみたいに18禁BLじゃないしねw

さて、これ以降の作品は2週間に一度になります

毎週楽しみにしてくれている方には悪いのですが

仕事をしないと危ないのでご勘弁を

では、次回をお楽しみb

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0014s/>

偽りの仮面

2011年10月8日12時26分発行